

「言葉の代わりに愛を紡ぐ」

花き装飾コース

1. 序章

今回の卒業制作は「愛」をテーマに、ブライダル作品2つと、合同制作のディスプレイ作品1つの計3つを制作しました。加えて、私の原点である、お花でテーマを表現するということにフォーカスを当て、作品それぞれが物語のワンシーンを切り取ったような世界観になるよう意識しました。

2. 第一章「密やかに、遊ぶように、誓って」



近年の新しい結婚式の形として親しまれつつある、フォトウェディングを制作しました。様々な理由で式を挙げない選択をした方々にも注目されているフォトウェディングは、より「2人らしさ」について深掘りできるウェディング形式であるため、自由度が高く柔軟な発想が必要です。いつか写真を見返したときに暖かい気持ちになれるよう、豪華絢爛な装花ではなく、穏やかに優しく、落ち着いた雰囲気仕上げました。

ブーケ、フォトアイテムはどちらも初めてデザインする形だったため、苦戦しました。どこにFPを持ってくれば良いのか、そもそもどこから取り掛かればいいのか等、序盤から悩みましたが、今まで勉強してきた知識を組み合わせることで、イメージ通りのデザインにできました。

平面的にならないように意識するポイントの見方や、重さの調整の仕方などを多く学びました。

3. 第二章「Petit feu de Noël」



國井さんと共同制作をするにあたり、テーマはすぐ決まったのですが、全体的に詰めが甘く、かなりあやふやな案で進めようとしていました。他人とイメージを共有するためには、かなり掘りしておかないといけないなと感じました。

土台の組み方を変えていなくても、ほんのわずかなずれで仕上がりが変わってきてしまうため、練習と本番で花瓶の置ける位置が変わってしまい、苦戦しました。全体を見つつバランスが良くなるように調整したため、練習通りとはいきませんでした。大きくイメージと離れてしまうということはなくうまく調整できたと思います。

今回の作品は、私の卒業制作の中で最も大きい作品だったため、とにかく遠くから見てバランスを整えることを意識しました。違和感があっても気が付けないことが多いので、何度も何度も遠く見るようにし、全体をきちんと見るように意識しました。

4. 終章

テーマである「愛」のイメージをお花に落とし込めたと思います。

フォトウェディングやディスプレイなど、初めての挑戦ばかりの制作となりました。経験不足故に、アイディアが中々浮かばなかったり、一つのやり方に固執して表現の幅を狭くしてしまっていました。様々な技術の習得と、表現方法の吸収をし続け経験を積み、それらを組み合わせて様々なやり方を見つける必要があります。

また、流行に敏感に敏感に反応し、お客様がどういったものを求めているのかを素早く察知し、それに応えられる技術を身に付けていくことも重要だと感じました。

2年間の集大成となりましたが、まだまだこれからも学び続けなくてはならないと、強く思った卒業制作でした。